

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 2 日作成)

委員会名	社会システム小委員会	主 査 名：小林昭男
所属本委員会 (所属運営委員会)	海洋委員会(海洋研究推進運営委員会)	委員長名：登坂宣好
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本小委員会では都市機能補完型海洋建築物に関して、法制度、社会性、経済性に関わる諸問題を整理し、都市計画に関わるプロジェクト要件と社会が受け入れる社会システム要件を定義してきた。本年度は、これらの成果を用いて、社会システムから見た都市機能補完型海洋建築物の実現への課題と解決方法の検討を本年度の活動目標とした。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：小林昭男(日本大学) 幹事：岡田智秀(日本大学) 委員：居駒知樹(日本大学) 荻原みき(東京電力) 福島敏夫(北九州市立大学) 横内憲久(日本大学) 上野 誠(日本鋼管) 佐久田昌昭(敦賀短期大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2003 年度予算	90,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回 2003 年 5 月 7 日幹事会・2 名、第 2 回 2003 年 5 月 14 日幹事会・2 名、 第 3 回 2003 年 5 月 30 日・6 名、第 4 回 2003 年 6 月 13 日・4 名、 第 5 回 2003 年 6 月 27 日・5 名、第 6 回 3 月 10 日以降に開催予定
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本年度の研究活動計画に対して、以下の成果が得られた。 1) 日本国政府が掲げる都市開発プロジェクトと白書からみた社会システム要件として、現状のわが国の都市開発に向けられた重要な 5 機能(防災、環境、レクリエーション、産業活性、居住)を抽出した。 2) 海洋委員会で設置されている安全性、快適性、自然共生の 3 小委員会から提示された諸案を評価した結果、各小委員会の案がおおむね社会システム要件と整合している状況を明らかにした。 3) さらに、3 小委員会から提示された各案を実現に向かわせる今後の課題として、「具体的な実現化空間としての臨海部活用可能性」および「臨海部から洋上に至るまでのトータルデザイン」を明確化した。 これら成果は、「自然共生に配慮した都市機能補完型海洋建築の理念と提案」と題する内容で、他の小委員会での成果とともに成果報告書としてまとめられる予定である。また、この成果の一部は、2003 年 9 月 6 日に開催した海洋部門の大会研究協議会で発表した。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 「都市機能補完型海洋建築」の実現化の可能性を、社会システムという観点から考究することを目的に設置された。本年度の活動成果として、社会システムからみた実現化要件について次のものが導出できたことから、本年度当初の活動目的が十分に達成されたと判断する。
その他評価すべき事項	社会システム要件に関わる防災、環境、レクリエーション、産業活性、居住などについて、銀行家、企業家および学識経験者から幅広い意見を集め、実社会に応じた議論を行うことができた。